2023.02
町の工務店ネット
Newsletter

イベント情報

発 行 非営利一般社団法人 町の工務店ネット　〒432-8044 静岡県浜松市中区南浅田2丁目2-1　tel：053-570-9001

見学建物追加。目を養い、大いに語ろう。

町の工務店ネット 全国総会in長野

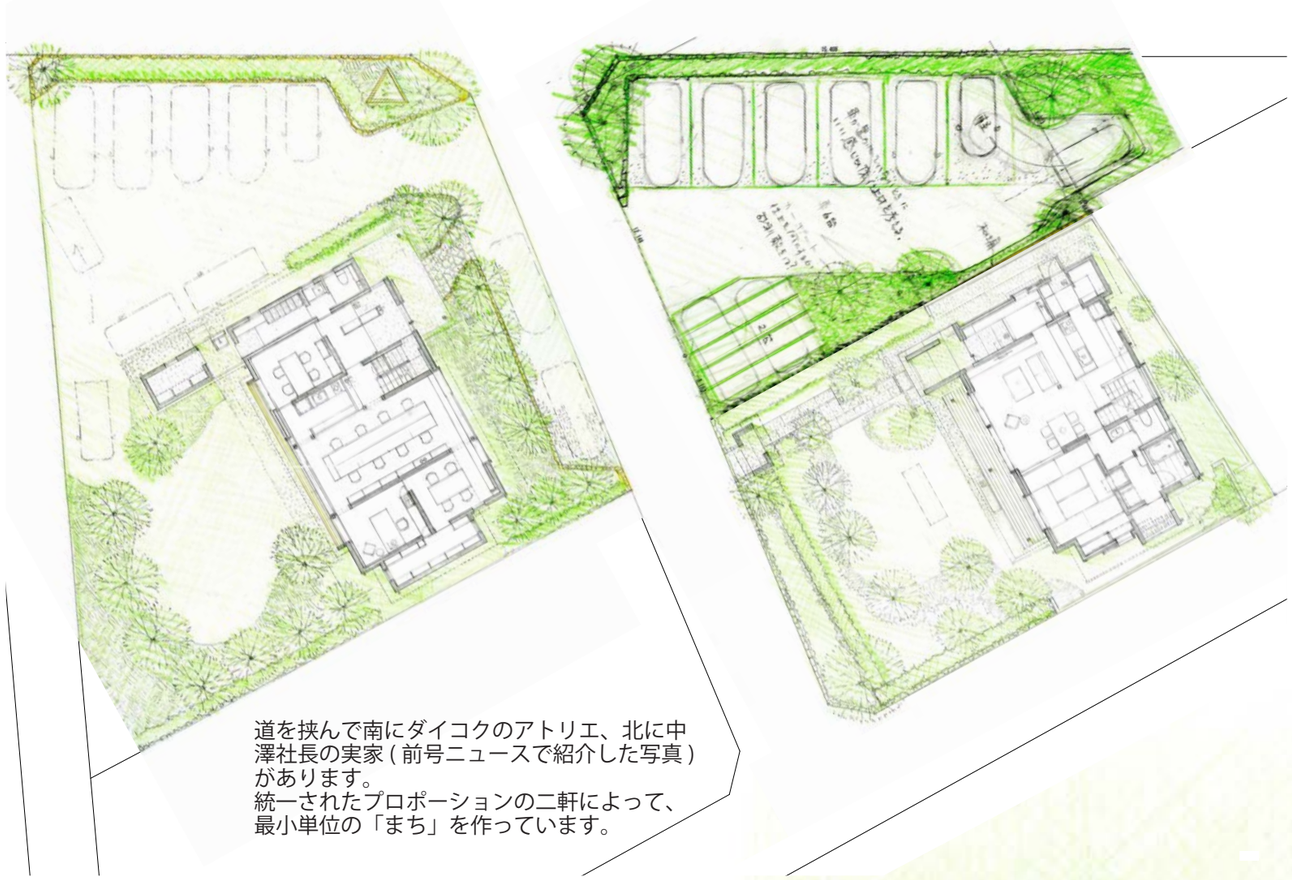
開催地 長野県長野市～山ノ内町

2023年 3／14(火)～15(水)

【参加費】~~34,000円／人(シングル)~~
シングルは満室となりました。
32,000円／人(ツイン)
*税別 バス・資料・会場・懇親会・宿泊・講師費等含

お申し込みは、別紙FAXまたはwebから。
https://forms.gle/PDVQuwxZbTXvsR2i8

田中敏溥さんの仕事・ダイコク社屋と篠ノ井の家による、最小単位の「まち」



道を挟んで南にダイコクのアトリエ、北に中澤社長の実家 (前号ニュースで紹介した写真) があります。
統一されたプロポーションの二軒によって、最小単位の「まち」を作っています。

アトリエ (手前) と中澤社長の実家 (奥)。

ダイコク社長　中澤善智さんからのコメント

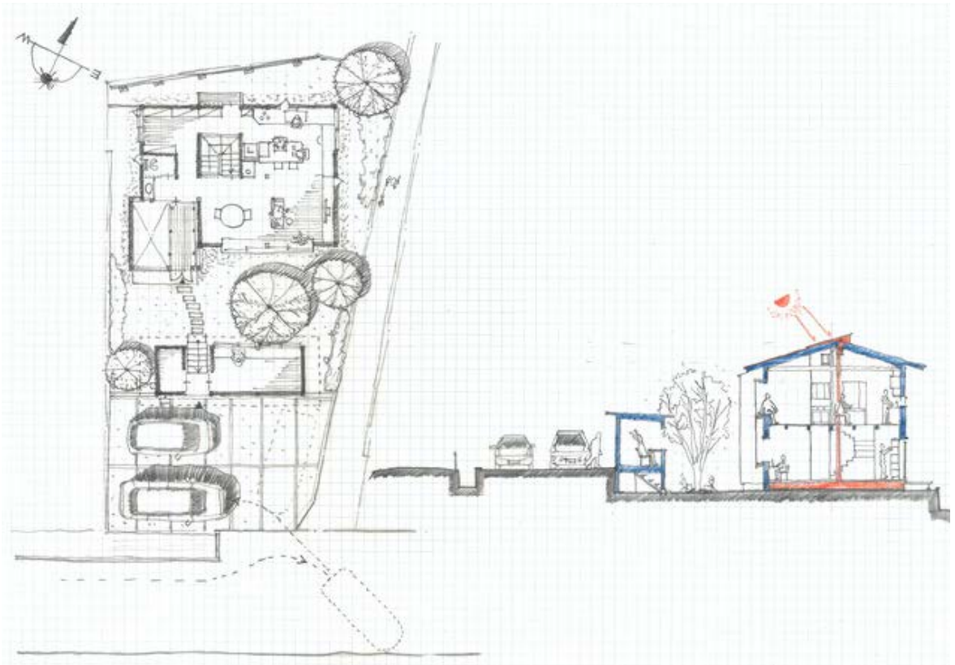
2 年前に田中敏溥さんに新社屋と私の実家を設計していただきました。
構造は山辺構造設計事務所にお願いしました。新社屋の構造を県産カラマツ材で、実家を県産スギ材でつくりました。
田中敏溥さん（共同設計：木下治仁さん）がつくる、居心地の良いやさしい空間に日々癒されています。

『向こう三軒両隣り』田中敏溥・著

田中敏溥さんは、古くから「向こう三軒両隣り」の大切さを説かれてきました。直接的には、自分の家の向かい側の三軒と、自分の家の両側の二軒のことを指しますが、もう少し緩やかに解釈すれば、親しくするご近所さんのことです。
人と関係を持たなくても生きていける時代だからこそ、人が集まって住む心構えをもう一度学んでおきたい。
そんな本です。

小屋・土間・中間領域。椿建築所の本領発揮。「上松の家」追加見学決定！

お施主様のご厚意で、椿建築所の建物をもう一軒見学させていただけることになりました。
土地のレベル差をうまく解消しながら配した母屋と小屋、中間領域の関係に注目してください。



椿建築所・佐藤慶一社長によるスケッチ。敷地の高低差により一階のダイレクトゲインは少ないが、空気集熱式ソーラーでそれを補う。

「上松の家」は、道路からレベルが下がっていく敷地に建てられました。
道からの視線を遮る役割も持つ小屋をくぐると、椿建築所お得意の中間領域、土間スペース (写真左下) が現れます。玄関でもあり、風除室でもあり、洗濯物を干すスペースでもあり、その他、住まい手の工夫で自由に使えるスペースです。高低差を逆手にとり、2 階リビングの室内は、道路側からの目線を遮りながら、大きな開口部を惜しむことなく開き、オープンに暮らせるプランです (写真右下)。

長野篠ノ井のリンゴ畑に、小さな町を作ります。

田園居住推進協議会が、長野で新たな集住の地を計画しています。総会では、椿建築所・佐藤慶一さん + プランタゴ・田瀬理夫さんによる、集住計画のモデルプランを発表します。当日はそのテーマ土地も見学します。宅地造成されていない場所を、どう読み取って、どう計画するのかにも注目してください。

総会準備コラム

参加者に見る次世代の潮流

この度、町の工務店ネット代表に就任する佐塚です。小池との二人代表という形ではありますが、これからを見据え、発展させていく役割に邁進していく所存です。

さて、今回申し込みをいただいている参加者を見ると、社長とそのご子息、というケースが今までになく多いと感じています。コロナ禍で目を養う機会が少なかったことへの反動もあるかもしれませんが、単に見学という域を超えて、各社とも、次代を担う後継者の育成を意識しての取り組みであろうと受け止めています。また一方で、若い世代の方々が、町の工務店ネットという団体をどう見るか、という試金石でもあると、改めて身が引き締まる思いです。

過日、浜松で運営委員の皆様に集まっていただいた際、マクスの鈴木社長が、「できるだけ若いうちに、いろいろなことに気づく方がいい」とおっしゃっていました。それは、経営の選択肢を増やすことでもあり、また同時に経験値を高められるということでもありましょう。

私自身は、今回集まっていただく次世代の方々と比せば若いとは言えませんが、町の工務店ネット発足から現在まで、類例のない様々な経験を積んできたと自負しています。町の工務店ネットのメンバーの工務店や、応援してくれる皆様にも、様々な知見を持った方が多くいます。若い人たちが、そうした人たちと交わり、先を見通す力をつけていくことこそが、これからの町の工務店ネットに求められているものだと考え、これからも積極的に機会を作っていきます。

願わくば、次世代を担うメンバー (ご子息ご息女に限らず) に、より多くご参加いただき、そうしたメンバー同士の紐帯を深めていただければ幸いです。

もちろん、オヤジ連中もそれに負けられません。お互いの違いから学ぶ、それが町工ネットです。長野で様々な違いを見つけましょう。

(佐塚昌則)